



全トヨタ労働組合連合会

結成50周年記念式典

2022年9月16日、全トヨタ労働組合連合会 結成50周年記念式典を名古屋国際会議場センチュリーホールで開催しました。

オープニングアクトでは、和楽器ユニットTry Sceneが奏でる幻想的な音楽の中で、書道家 真滯氏による書道パフォーマンスを披露。全トヨタ労連を作り上げてきた先人たち、ともに力を合わせてきた加盟組合、日頃自動車産業を支えてくれている組合員への「感謝」を込めて書を完成させました。

そして、式典の中盤では、全トヨタ労連の全加盟組合の想いを紡いだイメージムービー「未来へ向かう」の上映や、50周年イベント、50周年ビジョンの発表に続き、トヨタ自動車 豊田章男社長と鶴岡会長により、「労使相互信頼」の実現について、メッセージをいただきました。



全トヨタ労連 会長
鶴岡光行



愛知県知事
大村秀章氏



全トヨタ労連 副会長
川人哲也



全トヨタ労連 副会長
星野義昌



全トヨタ労連 事務局長
吉清一博

オープニングアクト



式典のはじまりを飾った
圧巻のパフォーマンス

Try Sceneの和太鼓演奏から始まった
書道パフォーマンス。
縦約2m、横約4mもある巨大な和紙に、
書道家の真滯さんが豪快な書を
披露してくれました。



完成した「感謝の書」

ステージ上で書道家の真滯さんが
魂を込めて書き上げた「感謝の書」。
これまで全トヨタ労連を支えてくれた、
さまざまな方々への感謝が込められました。

労連歌の紹介・演奏



4番目の労連歌をお披露目

組合員から自動車産業に対する想いを募集し、
その想いを紡いで作成された新たな労連歌が、
トヨタ工業学園吹奏楽部の皆さんによって披露されました。
コロナ禍で十分な練習時間が確保できない中、
完璧な演奏で全トヨタ労連の50周年を
祝ってくれました。



新たな労連歌は、仲間たちでつないでいく

演奏が終わった瞬間、会場は大きな拍手に包まれました。
新しく生まれ変わった労連歌は、新たな仲間たちが
大切につないでいってくれるはずです。



全国ラリー動画の上映

全ト地協ブロックをクルマで走破し、
仲間の想いを込めて作成したオリジナルムービーが上映されました。
「トヨタはひとつ」その理念が再確認されました。



労使相互信頼について

自動車産業の100年に一度の大変革期を労使とともに乗り越えるために、労使相互信頼の実現に向けた想いを、組合代表と加盟組合企業代表から語っていただきました。



組合代表

全トヨタ労働組合連合会 会長

鶴岡光行

組合代表

鶴岡会長からのメッセージ全文

本日の50周年という大きな節目を迎えるにあたり労働組合を代表し、「労使相互信頼」につきまして申し上げます。

先ほどお聞きいただきました50周年ビジョンですが、策定にあたり、私自身も全トヨタ労連の歴史と、結成に至るまでの先人の想い、そして「労使相互信頼」という言葉について振り返ってまいりました。今でこそ、私たちの労使関係を語るとき、当たり前に使われる言葉ですが、この言葉が根付くまでには、幾多の試練、労使双方の努力、長い交渉の歴史がありました。

本日、我々労働組合はあらためてこの言葉をしっかりと肝に銘じるとともに、会社の皆様にもぜひ、心に留め置いていただきたいと思います。また、今日は加盟組合企業を代表して、トヨタ自動車の豊田社長から後ほどメッセージをいただきたいと思っております。豊田社長、よろしくお願いいたします。

まず、この「労使相互信頼」という言

葉ですが、その意味は「会社は企業繁栄の源は人にあるという理解の上に立ち、進んで労働条件の維持・改善に努め、組合は生産性向上の必要性の認識の上に立ち、企業の繁栄のため会社諸施策に積極的に協力する」というものであります。この考え方は、戦後の労働争議とその後の混乱期の反省を踏まえ形成され、労連結成前から多くの主要組合で共有されていました。ただ、当時、世間では一般的に「労使というのは対立するもの」と言われる中、異質と揶揄もされていました。

1970年代に入り、グループ労連結成に向け動き出す中、この「労使相互信頼」を全トヨタ労連の労使関係の基軸として据えた際も、信頼関係が築けていない会社・組合からは、「労使相互信頼なんてばかげたことを言うな」と言われることも少なくありませんでした。

労連結成にあたり製造系からは「メーカーの購買政策に巻き込まれるのは嫌だ」とか、販売系からは、「本当に自分たちの声を聞いてくれるのか」など、一部から疑心暗鬼の声があったの

も事実です。

ただ、先人たちはこの「労使相互信頼」の労使関係こそが職場と会社を強くしていく新しい時代のあるべき姿であり、会社、トヨタグループ、ひいては自動車産業の発展に寄与すると情熱をもって労使双方を説得して回りました。そうした先人たちの努力が、グループ労使に根付き、活動も含め浸透していきました。

労使相互信頼の精神は、相手の立場を尊重し、労使それぞれがお互いの目標達成のために努力するというところにあります。そして、それは、単なるお題目としてではなく、いかに職場の中で実現していくかを考えなければなりません。それはすなわち、労使の徹底した話し合いであり、会社全体の課題から、職場ごとの問題も含めあらゆる階層で、本音で話し合える労使関係を築いていく必要があると思います。

全トヨタ労連の綱領をみると、実は「労使相互信頼」という言葉ではなく、「労使相互理解」という言葉を掲げています。これは、先ほども述べた歴史的な背景もあり、一足飛びに「相互信頼」だけを謳うのではなく、まずは労使がお互いの立場や考えの違いを理解するところから始めないといけない、相互信頼の前に、まずは相互理解だ、ということで、信頼の前に理解を入れ「労使相



互理解」という言葉を最初に掲げたと聞いております。

そして私たちは今、100年に一度の大変革期にあり、さまざまな難局に直面するときだからこそ、一層労使が手を携えて立ち向かうときであります。従って、結成から50年の節目を迎える今こそ、労使相互理解から、労使相互信頼へと新たに綱領に掲げ、真に相互信頼を実現するべく、ともに頑張りましょう。





加盟組合企業代表

トヨタ自動車株式会社
代表取締役社長

豊田章男

加盟組合企業代表

豊田社長からのメッセージ全文

豊田でございます。この度は、全トヨタ労連の50周年、誠におめでとうございます。皆様には、日頃よりトヨタグループの発展にお力添えいただき、心よりお礼申し上げます。

また、日々の生産変動に対応いただいております製造現場・輸送現場の皆様、長納期が続く中でお客様との絆をつないでくださっている販売店の皆様のご尽力に、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

今年は、全トヨタ労連の50周年に加えて、トヨタの「労使宣言」締結から60年という節目の年でもございます。トヨタの歴史において、絶対に忘れてはならない出来事が、1950年の労働争議です。会社の経営状況が急速に悪化し、トヨタの労使は、厳しい対立関係に陥りました。

当時、社長であった豊田喜一郎は、「苦楽をともにしてきた仲間の夢や生活を守りたい」という思いと、「会社が

つぶれて、自動車産業の将来を絶ってはならない」という思いの中で悩みに悩んだ末、従業員の四分の一にあたる、2,000名以上の人員整理という苦渋の決断をいたしました。そして、その責任を取り、自らも社長を辞任いたしました。「対立からは、何も生まれない」「人材はコストではなく、財産」。これが、トヨタの労使で受け継がれる教訓となりました。

その後、会社・組合双方の先人たちは、長い時間をかけて、膝を突き合わせ、徹底的に話し合いを重ねました。そして、実に12年の歳月を費やし、1962年に、「会社は従業員の幸せのために、従業員は会社の繁栄のために、互いに力を尽くす」という「労使相互信頼」を基盤とする「労使宣言」の締結に至りました。

その後も、オイルショック、バブル崩壊、リーマンショック後の赤字転落、超円高をはじめとする6重苦など、今日までの歩みは、苦難の連続でしたが、そうした危機に直面するたびに、「労使宣言」の精神に立ち返ってまいりました。



社長就任以来、私が何より重く受け止めてきましたのは、この労使相互信頼の歴史でした。だからこそ、私は必ず、労使の話し合いの場に参加しております。

現在、トヨタでは、労使協議の議長はおやじの河合さんが務めております。現場を知り尽くした河合さんの前では、格好のいい理屈は通用しません。ましてや、嘘は、すぐに見抜かれてしまいます。トヨタの話し合いは、現場のおやじが仕切る、まさに「家族の話し合い」なのです。

では、「社長はどういう立場なのか？」という、労使のどちらにもつかない「行司役」です。私は、「従業員の幸せ」と「会社の発展」、その双方を常

に思いながら、全身全霊でそれぞれの話を聞き、「今回は、会社の勝ち」「今の議論は、組合が職場の現実を伝えている」など、肌身離さず持っている小さなノートに、感想を書き込んでおります。

そんな中で、今年、私たちの労使協議は、大きく変化いたしました。「自動車産業で働く550万人のために」「組合に属していない割の人たちのために」。それが、私たちのブレない軸になりました。そして、全トヨタ労連を通じて、仕入先や販売店の皆様も、私たちの話し合いに参加し、声を上げてくださるようになりました。

「労使宣言」では、「労使相互信頼」に加えて、「自動車産業の興隆を通じて、国民経済の発展に寄与する」というト

ヨタの「使命」も誓っております。

そして今、カーボンニュートラルや「成長と分配」の実現が求められる中、私たちの課題は、産業全体、社会全体に広がってきております。現場の事実に向き合い、ともに悩み、本音で話し合う。そして、「自動車産業の仲間のため」「日本の未来のため」に、ともに行動していく。そんな労使の存在が、今、何よりも重要になってきていると感じております。



す。全トヨタ労連のもと、トヨタグループ全体でこうした労使関係を実現し、自動車に関わる全ての人の幸せを実現できるよう、今日この場にいる皆様と心ひとつに動いてまいりたいと思っております。

最後になりますが、トヨタの河合おやじは、今年、入社60年目になります。本当は、全トヨタ労連よりも長い歴史をもち、誰よりもトヨタの労使関係を知っている河合おやじに話をしてもらえるとよかったです。実は将来、私は組合の委員長になりたいと思っていますので、そんな私が代わりに挨拶をさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

そして、先ほど見させていただいた（全トヨタ労連作成の50周年記念）ビデオの最後、「大丈夫」という言葉で締めくくられていました。「大丈夫」という言葉には、それぞれの字に「人」が必ず入っています。何かをやる時、「大丈夫」と言うときには、自分の周りには3人の支えがいるという意味だと思えます。全トヨタ労連の皆さんが心ひとつにやっつけば、その3倍もの人と一緒になれば、必ず、どんな変化にも「大丈夫」ということで立ち向かえるのではないかと思います。

そして、ここにおられる皆さんと、「ワンチーム」のかけ声で最後終わらせていただきたいと思えます。私が「ワンチーム」と言いましたら、大変恐縮ですが、3つ拍手をお願いできませんでしょうか。その後、全員で、元気な声を出して「全ト50!」と言って締めさせていただきます。簡単なことなので練習はいたしません。では、まいります。「ワンチーム!全ト50!」。

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン 貸切イベント

全トヨタ労連 結成50周年を記念して、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン貸切イベントを、
2023年5月8日、27日、6月3日の3日間にわたり実施しました。

どの日も晴天に恵まれ、全国から約3万人の組合員とご家族に参加いただき、
50周年を記念したオリジナル・ショーや人気アトラクションなどを楽しんでいただきました。



50周年を記念した各種イベントの開催

加盟組合と組合員への日頃の感謝を込めて、職場の仲間やご家族と楽しんでもらうための、さまざまなイベントを企画しました。多くの組合員の皆さんに参加いただき、50年の節目を、記憶に残していただくことができました。

デジタルイベント

全国の組合員が自宅から参加できるデジタルイベントを実施し、多くの組合員とご家族に参加していただきました。

オンライン海外旅行



トルコツアー



中国・オーストラリアツアー



世界一周ツアー



オンラインセミナー



なかやまきんに君

eスポーツ大会



DAY1 フォートナイト



DAY2 フォールガイズ



じゅんいちダビッドソン



世界ボウリング大会開催

日本全国、アメリカ、中国のROUND1から参加ができる、大規模なボウリング大会を開催。多くの組合員とその家族に楽しんでいただくことができました。



50周年記念式典で披露された「感謝の書」の設置

全トヨタ労連 結成50周年記念式典において行われた書道家・真滯氏による書道パフォーマンスの作品をつどいの丘に設置しました。



全トヨタ労連結成50周年イベント記念作品を設置

加盟組合執行委員の顔写真を用いて、周年イベント「全国ラリー」でつないだステートメント(メッセージ)を表した作品と、加盟組合名称を用いて、全トヨタ労連のロゴマークを描いた作品2点を、つどいの丘ロビーに設置しました。



記念フォトアルバムを贈呈

50周年記念式典で労連歌を演奏してくれたトヨタ工業学園吹奏楽部のメンバーへ記念フォトアルバムを贈呈しました。